

# 海外セミナーの実施状況と課題

—台湾・銘傳大學における研修について—

園田博文<sup>1)</sup> 黄大任<sup>2)</sup>

2008年1月に示された「平成18年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」(独立行政法人日本学生支援機構)によると、2006年度の日本人留学生数は前年度比14%増の23,633人であった。留学期間別に見ると1か月未満の留学が26%増の10,420人である。本稿では、協定等に基づく日本人学生の留学のうち、1か月未満で、しかも、単位認定に関わる授業を「海外セミナー」と名付け、情報の共有を図ることを目的としている。

2007年度後期から始まった「アジア文化研修セミナー」は、「海外セミナー」に相当するが、第1回、第2回ともに、協定校である台湾の銘傳大學に赴いて研修した。この実施内容を「全体のスケジュール」「台湾での行程」に分けて示し、受講学生、および、交流に参加した台湾・銘傳大學のボランティア学生に行ったアンケートによる分析結果を加え、よりよい「海外セミナー」を模索した。

その結果、異文化体験・学生交流という点からは、受講学生と銘傳大學の学生双方から、全体として実りあるものと感じられているが、細かく見てゆくと、事前打ち合わせの問題等改善すべき点があることが確認された。また、第1回に3回だった「台日学生交流と市内参観」を第2回には4回に増やしたことに関連し、受講学生は十分な回数であると感じているが、銘傳大學の学生一人一人にとっては、少ないと感じられていることもわかった。これらを双方とも最適な度合いになるように調整する等、今後の課題が明確になってきた。

キーワード：海外セミナー アジア文化研修セミナー 言語文化 異文化体験 学生交流

## 1 はじめに

外国人留学生の受入れとともに日本人学生の留学(派遣)が目されるようになって久しい。2008年1月に示された「平成18年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」(独立行政法人日本学生支援機構)<sup>1)</sup>によると、「平成18年度の留学期間別日本人留学生数」は、下記のようにになっている(括弧内は平成17年度の人数)。

1か月未満	10,420人(8,301人)	26%増
1か月以上3か月未満	4,100人(3,701人)	11%増
3か月以上6か月未満	2,476人(2,462人)	1%増
6か月以上1年未満	6,158人(5,521人)	12%増
1年以上	479人(704人)	32%減
総数	23,633人(20,689人)	14%増

この区分の仕方に沿って見ると、1年以上の日本人留学生数が最も少なく、しかも前年度に比べ減少している一方で、1か月未満の日本人留学生数が最も多く10,420人で、しかも前年度比26%増となっている。

本学でも、人文学部において「異文化間コミュニケーション」という授業が開講され、10日間から2週間程度、中国、韓国、オーストラリア等、毎年、異なる国の協定校等に赴いており、単位も認定されている。単位認定や協定の有無に関わらない研修も、これまでに種々の試みがなされている。最近では、地域教育文化学部において、2008年8月31日から9月14日にかけて行われた「ポストン英語学習」を挙げることができよう。

このように、数多く実施されている1か月未満の留学や研修であるが、その詳細については、誰もが閲覧できる形による公開がなされていないことが多く、全国規模の情報の共有に不十分な点が認められる。

本稿は、協定等に基づく日本人学生の留学のうち、1か月未満で、しかも、単位認定に関わる授業を「海

1) 山形大学地域教育文化学部文化創造学科

2) 山形大学大学院教育学研究科国語教育専修日本語教育分野修士課程在学

外セミナー」と名付け、情報の共有を図ることを目的としている。具体的には、地域教育文化学部において新たに開講された「アジア文化研修セミナー」（後期開講集中講義、台湾・銘傳大學にて実施）について、第1回、第2回あわせて2回分の実施内容を「全体のスケジュール」「台湾での行程」に分けて示した。受講学生、および、交流に参加した台湾・銘傳大學の学生に行ったアンケートによる分析結果を加え、よりよい「海外セミナー」の在り方を模索し、授業改善を進めてゆくものである。

なお、分析に当たっては、5段階の尺度を用い、平均値を求めるという方法を採用したが、この数値はあくまでも参考にすぎない。奥村（2006）、園田・奥村・中村（2008）で述べられているような「メタ認知的モニタリング（気づき、感覚、予想、点検、評価）」と「メタ認知的コントロール（目標設定、計画、修正、学習管理）」を自由記述から読み取ってゆく作業が重要であると考えられる。

## 2 全体のスケジュール

「アジア文化研修セミナー」については、特に国や地域を指定しているわけではないが、協定校との関わりを重視し、第1回、第2回とも台湾へ赴くことになった。基本的な内容については、台湾の大学における国際交流プログラムの現状や異文化である故に生じた問題の事例を取り上げた園田・百留・百留（2008）に記したが、台湾の言語文化・歴史文化・現代文化を研修先で直接体験し、協定校である銘傳大學の学生との交流を通して、異文化に触れ、自文化を再認識することが、この「海外セミナー」の目的である。

### (1)第1回アジア文化研修セミナーについて

下記の通り、事前調査、打合せ、オリエンテーション、事前指導を行った。2008年2月にはレポートの提出も行われた。

2006年12月11日（月）～15日（金）

事前調査、銘傳大學担当者とプログラム打合せ（於台湾）

2007年1月25日（木）第1回オリエンテーション

2007年4月6日（金）第2回オリエンテーション

2007年5月10日（木）第3回オリエンテーション

2007年6月28日（木）銘傳大學担当者とプログラム打合せ（於日本）

2007年9月13日（木）銘傳大學担当者とプログラム打合せ（於日本）

2007年10月10日（水）第4回オリエンテーション

2007年11月16日（金）第1回事前指導

2007年11月30日（金）第2回事前指導

2007年12月20日（木）～27日（木）実施

2008年1月22日（火）実施報告会兼次年度第1回オリエンテーション

### (2)第2回アジア文化研修セミナーについて

#### ①授業スケジュールについて

下記の通り、オリエンテーション、事前指導を行った。2009年2月にはレポートの提出も予定している。

2008年1月22日（火）第1回オリエンテーション

2008年5月12日（月）第2回オリエンテーション

2008年6月2日（月）第3回オリエンテーション

2008年10月1日（水）第4回オリエンテーション

2008年10月8日（水）第5回オリエンテーション

2008年10月22日（水）第1回事前指導

2008年10月29日（水）第2回事前指導

2008年11月12日（水）第3回事前指導

2008年11月13日（木）～20日（木）実施

2008年12月12日（金）実施報告会兼次年度第1回オリエンテーション（予定）

#### ②中国語学習会について

2008年6月から11月までの間、受講学生と中国語学習会を始めた。これは第1回受講学生からの改善点に「日本での自主的な語学学習」が多く挙げられていたため設けたものである。

学習会では11名の受講学生をA B二つのクラスに分け、週1回1時間半、中国語の学習を行った。学習会の目標は、中国語の正確な発音ができるようになることと、台湾で実際に使える実用的な中国語会話を身に付けることである。たとえば、「迷子になったときどうするか」というタスクを与え、最善の方策を話し合った。また、台湾の文化について調査し発表するという活動も行った。

学習会では、当初、学生が慣れている簡体字で作ったプリントを使っていたが、台湾で使用される繁体字に慣れるようにするため、繁体字に拼音（ピンイン）をつけた自作の教材を用いた。

#### クラスA

2008年6月13日（金）前期学習会オリエンテーション

2008年6月20日（金）前期第1回中国語学習会

2008年6月27日（金）前期第2回中国語学習会

2008年7月4日(金) 前期第3回中国語学習会  
 2008年7月18日(金) 前期第4回中国語学習会  
 2008年7月25日(金) 前期第5回中国語学習会  
 2008年10月8日(水) 後期学習会オリエンテーション  
 2008年10月15日(水) 後期第1回中国語学習会  
 2008年10月24日(金) 後期第2回中国語学習会  
 2008年10月31日(金) 後期第3回中国語学習会  
 2008年11月7日(金) 後期第4回中国語学習会  
 2008年12月19日(金) 事後反省会(予定)

#### クラスB

2008年6月19日(木) 前期学習会オリエンテーション  
 2008年6月26日(木) 前期第1回中国語学習会  
 2008年7月3日(木) 前期第2回中国語学習会  
 2008年7月17日(木) 前期第3回中国語学習会  
 2008年7月24日(木) 前期第4回中国語学習会  
 2008年10月9日(木) 後期学習会オリエンテーション  
 2008年10月16日(木) 後期第1回中国語学習会  
 2008年10月23日(木) 後期第2回中国語学習会  
 2008年10月30日(木) 後期第3回中国語学習会  
 2008年11月6日(木) 後期第4回中国語学習会  
 2008年11月27日(木) 事後反省会

中国語学習会の課題として、2点挙げることができる。

まずは、文字の問題である。日本で多く学ばれる中国語の表記法は、漢字を簡体字で書き、発音を拼音(ピンイン)で表すのが一般的である。これに対して、台湾式中国語の表記法は、漢字を繁体字で書き、発音を台湾独自の注音符号で表すものである。そこで、折衷的に繁体字に拼音(ピンイン)を付すことになるのだが、繁体字の提示の仕方には工夫が必要である。

2点目は、学習内容についてである。筆者が作ったプリントに載っている言葉しか使えなかったという意見や台湾でボランティアとの中国語でのコミュニケーションが円滑に進まず、代わりに日本語を使う場面の方が多かったという報告を聞いた。限られた時間で、いかにコミュニケーションに教えるかについては、今後の課題である。

### 3 台湾での行程

第1回について【表1】に、第2回について【表2】に示した。第2回の大きい変更点は、第1回に比べ、「台日学生交流と市内参観」の時間と自由行動の時間

を増やしたことである。【図1】は第2回における修業証書のサンプルである。銘傳大學から、言語・文化・交流の時間数として48時間が認定され、満点を100点とした中国語の成績も記載されている。第1回、第2回とも受講生全員が基準を満たし、授与された。

### 4 受講学生へのアンケートによる分析

受講学生にアンケートを実施した。実施日は、第1回が実施終了後3週間ほど経った2008年1月16日、第2回が実施直後の2008年11月20日であるが、同じ内容を聞いているため、比較しながら示すことにする。

「アジア文化研修セミナー」に関し、下記に挙げる日程や中国語の授業について「悪い 1・2・3・4・5 良い」「高い 1・2・3・4・5 安い」など5段階の尺度で記入した後、自由記述を書くというものである。

第1回13名全員、第2回11名全員が回答している。

以下に使用する数値は第1回は13名の、第2回は11名の平均値であり、目安として用いている。5に近いほど「良い」「安い」などプラスのイメージであり、1に近いほどマイナスのイメージとなる。

#### (1) 日程・費用について

##### ① セミナーの時期について

第1回が平均値2.8であるのに対し、第2回が平均値3.7となり、時期についてはやや改善された。第1回は2007年12月20日から27日にかけて実施された。

「台湾のクリスマスも体験できてよかった」「台湾の気候が過ごしやすく、セミナーの時期として丁度良いと思う」という意見があったが、「年末は忙しい」「就活との兼ね合いがたいへんだ」「就活のセミナー、企業のセミナーにも多く参加できなかったのもう少し早い時期がよかったです」という記述が見られた。

第2回は、第1回における自由記述の中の意見も参考にしながら、更に諸般の事情もあり、ひと月以上早い2008年11月13日から20日にかけて行われた<sup>2)</sup>。この自由記述にも「季節はちょうどよかった」「気候はとても良く、過ごしやすかったです」というように、過ごしやすさの点はよかったとあるが、「ただ、3年のこの時期の研修は少し就活に影響がある気がします」

「3年生の時だと忙しいので、2年生のときに実施した方がよいと思う」「3年よりは4年生の時にいきたい」という記述が見られた。

【表1】第1回(2007年度)アジア文化研修セミナーの行程表

Date	上午 10:00-12:00	下午 13:00-16:00
12/20 (四)		- 接機 (BR117/19:00 抵達) - 接機人員: 黎立仁、林姿呈、廖紋芊 - 預計 21:30 基隆旅館入座
12/21 (五)	10:30-11:00 始業說明會 11:00-12:00 簡介課程流程與瞭解學員能力	生活實用對話: 自我介紹, 喜好興趣, 家庭背景 介紹台灣、日本、台灣日本的比較 曾經去過的國家與想去的國家等 16:00-18:00 台日學生交流與市內參觀
12/22 (六)	校外教學: 上午: 台北出發至宜蘭、中餐 下午: 宜蘭傳統藝術中心及羅東運動公園參訪	
12/23 (日)	校外教學: 10:00-12:00 國立故宮博物院 12:30 中餐 14:00-17:00 板橋林家花園、龍山寺參訪	
12/24 (一)	看圖說故事: 學生以漢語描述數個對話情境圖片, 教師適當提出問題幫助學生進入語境	歌唱與慶祝: 唱聖誕歌曲與寫聖誕賀卡; 寄聖誕賀卡給朋友或自己 16:00-18:00 台日學生交流與市內參觀
12/25 (二)	情境對話: 學生根據簡單的圖及句子說明情境, 互相練習對話, 大量的練習聽力與會話	說故事: 學生準備至少十分鐘的故事, 說完後要其他同學告訴老師故事大意或是提問 16:00-18:00 台日學生交流與市內參觀
12/26 (三)	中華傳統藝術體驗: 捏麵人製作 教室: J403	結業測驗: 課程總結及口試: 自我介紹、回答問題及看圖說故事(成績包含說故事 50%、自我介紹 10%、回答問題 20%、看圖說故事 20%) 歡送餐會: 18:00-20:00 - 應日系代表: 林長河、黎立仁、徐希農 - 國教處代表: 劉國偉、廖蒼松、林姿呈、廖紋芊、蔡子毓
12/27 (四)	- 送機 (BR118/10:05 起飛) - 送機人員: 徐希農、林姿呈、廖紋芊	

【表2】第2回(2008年度)アジア文化研修セミナーの行程表

日期	星期	上午	下午
11/13	星期四	-	15:00-17:00 接機 (BR2127) 18:00-19:30 歡迎餐會
11/14	星期五	9:30-10:00 始業說明會 10:00-12:00 生活實用華語教學 主題: 自我介紹與搭訕 教師: 蔡子毓/教室: J418	13:00-15:00 生活實用華語教學 主題: 自我介紹與搭訕 教師: 蔡子毓/教室: J418 16:00-21:00 台日學生交流與市內參觀 1
11/15	星期六	校外教學: 國立故宮博物院 & 九份老街	
11/16	星期日	自由活動 & 台日學生交流與市內參觀 2	
11/17	星期一	10:00-12:00 生活實用華語教學 主題: 點菜與買貨 教師: 王蕙婷 教室: J319	13:00-15:00 生活實用華語教學 主題: 點菜與買貨 教師: 王蕙婷 教室: J418 16:00-21:00 台日學生交流與市內參觀 3
11/18	星期二	10:00-12:00 生活實用華語教學 主題: 點菜與買貨 教師: 王蕙婷 教室: J506	13:00-15:00 生活實用華語教學 主題: 華語歌曲教唱 教師: 蔡子毓 教室: J505 16:00-21:00 台日學生交流與市內參觀 4
11/19	星期三	10:00-12:00 生活實用華語教學 主題: 結業測驗 教師: 蔡子毓 教室: J505	13:00-15:00 中華傳統藝術體驗: 捏麵人製作 教師: 羅紫正 教室: J319 18:00-19:30 歡送餐會



【圖1】銘傳大學から授与された修業証書(第2回アジア文化研修セミナー)

## ②セミナーの日数について

第1回が平均値3.6, 第2回が平均値4.0であり, ともに比較的高い値を示している。第1回, 第2回とも7泊8日であり, 多くの学生が「セミナーとしてはちょうどよいと思います。旅行としてはもっと滞在していたかったです」「長くもなく, 短すぎもせず, 適切だったと思います」「少々長い感じでしたが, 現地の学生とたくさん触れ合う機会があったので良かった」「食事が合わない人もいたのでちょうどよいと思う。また, 毎日出かけていると疲れがたまるので, 7泊ぐらいがちょうどよい」「すごくちょうど良かったと思います。自由な時間もありますし, 行きたい所にも行けたので良かったです」のように妥当と考えている。

1, 2, 3に印を付けた学生の記述(全例)を記すと, 「もう少し多くの経験をしたかったので, 7泊8日以上でもよかったかなと思いました」「2週間でもよかった」「もっと長くても良いかも」というようにもっと長い方がよいという記述がある一方, 「せっかく仲良くなりはじめた時にお別れなのはさびしいけど, これ以上長くてもグダグダになりそうなので妥当だと思う」という意見や, 「少し長いと感じた」「少しホームシックになったのでもう少し短くてもよい」というように短い方がよいという記述も見られた。

第1回に比べ第2回にはスケジュールをやや緩やかにしたものの, 毎日が活動日であるこの種の研修は, 個人差も考慮すると, 7泊8日あたりがおおむね妥当と言えよう。

## ③セミナーの費用について

第1回が平均値4.5という高い値を示したのに対し, 第2回は平均値2.8であった。

第1回には, 「10万以下で研修することができ, すごく感謝しています」「銘傳大学の全面的な協力と先生方の尽力により, 当初よりも極めて安い費用で行くことができ, たいへん感謝しています。来年からもこの状態であれば, 参加したい学生が行くことができるのではないのでしょうか」「当初の予算よりも大分安くなったので良かった」「セミナー費以上の価値があるセミナーです」という記述が見られる。

計画段階で, 協定校以外での「留学」の見積をとったところ, 20万円前後になっていた。それが, 協定校の銘傳大学に決まってから, 15万円程度の試算となり, さらに, 単年度申請であるが, 授業料等セミナー費用分の奨学金が支給されることが急遽決まり, 学生

負担分としては, 往復の航空券代と旅行保険の費用を合わせて9万円程度となったという経緯がある(最終的には学部からの支援があり学生負担分は7万円程度となった)。

第2回は, 「安い。でも, 奨学金が出ないなら行かないかも」「航空券, チャージが値上がりして少し高かったが, 学校の授業料込みだと考えると普通だと思う」「飛行機代と保険料とで10万は高いと思います」「飛行機代が高い」という記述が見られた。

サーチャージが最も高い時期の航空運賃となったため, 学生負担分が第1回に比べ, 7,000円ほど増えた。しかも, 渡航が近づくに連れ, 円高と原油価格の下落が進行し, 旅行代金等が下がり始めていたので, よけい割高感が出たものと思われる。今回も単年度申請により, 奨学金が支給されたが, この決定の時期が早かったことも要因として考慮される。

## (2)中国語の授業について

全体的な授業については, 第1回, 第2回ともに平均値4.7という高い値を示した。中国語のスキルアップにつながったかという点については, 第1回平均値3.7, 第2回平均値4.2であった。

第1回には, 「先生は最高の先生です」「中国語が全然できないのにも関わらず, 丁寧に授業をしてくださって感謝しています」というように感謝の意が述べられるとともに, 「中国語の学習にもっと力を入れて日本でやってから行けばよかった」「中国語を日本でもっと勉強すべきだったと強く感じました」「中国語のスキルはこちらでもっと勉強していかななくてはならなかったと反省しています」「大学での中国語の演習など, 日本での事前指導を増やしたい」「もっと会話を勉強して, 街に出かけて使いたかった」という後悔の気持ちも窺われた。

第2回は, 第1回の課題を解決するために, 前述の「中国語学習会」を開いた。「先生が最高だった」「先生2名ともおもしろく, フレンドリーでよかった。内容もわかりやすかった。自分で文を作ることを多くやったので, とっても勉強になった」「おもしろくてフレンドリーな先生だった。日本語が通じなくて困ることもあったが, 語学の勉強になった」というような前向きな記述が目立った。「たいへん充実した楽しい授業だった。ただ, 授業の時間が少なかったのも, あまり中国語が身につかなかった」「語学だけでなく, 歴史などについても学習する機会があればよいと思う」という記述も見られた。

## (3) 「校外教学」について

日程スケジュールについては、第1回平均値3.7、第2回平均値3.8であり、あまり変わらない値を示している。

第1回は、土日それぞれ日帰り、宜蘭伝統芸術センター・羅東公園・故宮博物院・板橋林家花園・龍山寺に赴いた。「すごく楽しい校外学習でした。台湾のPTPI（国民外交社）の学生もずっと側にいて一緒に廻っている説明してくれたので、いろいろ勉強になりました」「先生方やボランティアの方々の尽力により、非常に充実した内容になりました」「ちょっとハードでしたが、内容は濃かったです」という肯定的な記述があった一方、「片道3時間の移動、見学時間の少なさから、校外学習以前の問題であると感じた。日程や見学場所を改善する必要があると思います」「そんなに遠いところへ行かなくても交流は十分できたと思う」「バス移動がとても辛く、芸術センターでは、バスを降りた後2時間くらいずっと気分が悪かった」という否定的な記述も見られた。

第2回は、第1回の記述から窺われる個人差を考慮し、ハードスケジュールにならないよう配慮した。

「校外教学」の時間も土曜の1日だけとし、赴いた場所も、故宮博物院・九份という比較的近いところにした。それでも「ハードだった」という記述が見られたが、逆に「校外学習の時間が少し短かった」という意見もあった。「時間もちょうど良く、よかったですと思います」「九份ではたくさん歩いて疲れたけど楽しかった」「九份は来年も行った方がよいと思う」のように肯定的な記述が多く見られた。

故宮博物院については、第2回には少々時間を延ばしたのだが、2回とも「故宮博物院の時間が少し短かったような気がする」という意見が多かったため、長時間時間を取るか、もしくは、自由行動日に見学したいだけ見学する等、工夫が必要である。

## (4) 「台日学生交流と市内参観」について

銘傳大学の学生と触れ合うことができたかどうかについて、第1回平均値4.4、第2回平均値4.6と、ともに高い値を示している。

第1回は、学生交流の時間を急に設けることにしたこともあり、「事前に交流会の日程を教えていただきかった」「交流会があるという事実を事前に知らせて欲しかったです」という記述が見られた。一方で、学生交流については、「一番“交流”という言葉が似合う部分だったと思います。色々な場所へ行き、人と

触れ合い、最高でした。協力してくれたボランティアの方々への感謝の気持ちでいっぱいです」「毎日のように夜遅くまで沢山の場所に案内してくれて本当に感謝しています。彼らがいなかったら、台湾をこんなに好きにならなかったのではと思います」という記述が見られる。

第2回は、学生交流の重要性を確認できたため、回数も3回であったものを4回に増やした。「台湾の学生と親しくなれてよかった。4回以上の交流でもよかったと思うがまあちょうどいい。少なすぎても親しくなれない」という意見がある一方「ボランティアの学生と知り合えてよかった。みんな親切で日本語も上手だったが、自分たちがあまり中国語を使えなかったため、甘えてしまった部分があった。また、ボランティアに気を使って、じっくり見ることができなかったり、行きたいところがうまく伝えられなかったりしたところもあったので、もう少し回数を減らして自分達で行動する日もあるといいと思う」という意見も見られた。

## 5 ボランティア交流学生へのアンケートによる分析

「アジア文化研修セミナー」の「台日学生交流と市内参観」でボランティアとして協力してくれた銘傳大学の学生にアンケートを実施した。異なりで24名の学生にアンケートを行った。中国語と日本語の二つ様式を用意し、ボランティア学生に自由に選んでもらった。

以下の3項目について聞いた。

- 1 「台日学生交流と市内参観」について
  - a 山形大学の学生と触れ合うことができましたか。
  - b 回数（14日・16日・17日・18日の4回）は適当でしたか。
- 2 セミナー全体を通して、感想・改善提案など自由に書いてください。
- 3 日本語能力試験を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、いつ何級に合格したか教えてください。

1aの質問には、「悪い 1・2・3・4・5 良い」という5段階の尺度を使い、1bの質問には、「少ない 1・2・3・4・5 多い」という5段階の尺度を用いた。3項目とも自由記述を書く欄を設けている。電子メールでのアンケートとなったため、回答は7

名からのみ得られた。7名とも中国語の様式を選んで回答している。

1の質問には、以下のような意見が見られた。

- ・ボランティアたちが日本の学生たちと触れ合うことがよくできた。
- ・市内参観の回数がやや少ない。
- ・市内参観は午後4時以降だから、触れ合う時間が限られているため、接する時間をもっと欲しい。

1aの質問には、7名ともすべて5に印を付けたため、平均値は5.0と高くなっている。1bの質問には平均値が2.3という結果であった。自由記述も含めて分析すると、日本人学生と触れ合うよい機会として満足しているが、回数や時間についてはやや少ないと感じていることがわかった。これには、異なりでは24人であるが、一人一人の参加の度合いが少なかったことが影響している可能性が考えられる。園田・奥村・内海・黒沢(2006)で触れたような日本人学生にとって留学生と接する機会が少ない状況が、台湾においても同じように「応用日本語学科に在籍しながら日本人留学生と接する機会が少ない状況」として存在している。

2の質問には以下のような意見が見られた。

- ・日本人の学生が中国語を使いこなせないため、コミュニケーションをほとんど日本語で取った。
- ・授業のない夏休み中に行ってほしい。
- ・事前打ち合わせが良くできていなかったため、来年は両方の交流係が早めに打ち合わせをしてほしい。

3の質問からは、2級か3級に合格したボランティアが多いということがわかった。

## 6 まとめと今後の課題

情報の共有と授業改善を目的として、「海外セミナー」である「アジア文化研修セミナー」の第1回と第2回、あわせて2回分について見てきた。「全体のスケジュール」「台湾での行程」を記した後、受講学生と銘傳大学ボランティア学生へのアンケート結果を分析し、種々の傾向が窺えるようになった。以下、主要な2点を挙げる。

言語文化という点からは、中国語の学習が必要であり、第1回実施後の課題ともなっていて、第2回の実施に当たっては、中国語学習会を設けたが、まだ改善の余地はありそうである。

異文化体験・学生交流という点からは、実りあるものと感じられるが、細かく見てゆくと、事前打ち合わせの問題等改善すべき点がある。また、第1回に3回

だった「台日学生交流と市内参観」を第2回には4回に増やしたことに関連し、受講学生は十分な回数であると感じているが、ボランティア学生一人一人にとっては、むしろ少ないと感じられている。これらを双方とも最適な度合いになるように調整する必要がある。

本稿をまとめながら、今後の課題がまだまだたくさんあることにあらためて気づかされた次第である。

## 【注】

1) 調査内容の詳細を注記事項も含めて引用すると下記の通りである。

この調査は、日本国内の大学等と諸外国の大学等との学生交流に関する協定等(以下「協定等」という。)に基づき、教育又は研究等を目的として、平成18年度中(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)に海外の大学等(海外に所在する日本の大学等の分校は除く。以下、「海外の大学等」という。)に派遣された日本人学生及び該当協定等について、調査したものである。

注1) この調査でいう「協定等」とは、両大学長、学部長等の捺印又はサインを交わした正式文書だけではなく、正式文書としては両大学取り交わしていなくても、派遣に関わる事務文書が大学等に存在し、交流実績がある取決め又は覚書等も含む。

注2) この調査でいう「留学」とは、海外の大学等における学位取得を目的とした教育又は研究等のほか、学位取得を目的としなくても単位取得が可能な学習活動や、異文化体験・語学の実地習得、研究指導を受ける活動等をいう。

2) 第1回、第2回とも中国語での名称は「アジア文化研習團」である。第2回は秋に行われたため、英語での名称は「Fall Study Abroad Program」となっている。

## 【参考文献】

- 1) 奥村圭子(2006)「異文化間コミュニケーション教育における内省の活性化」『山梨大学留学生センター研究紀要』第1号: 17-30.
- 2) 園田博文・奥村圭子・内海由美子・黒沢晶子(2006)「留学生と日本人学生の交流活動実践から見えてくるものー「気づき」を通じた異文化間コミュニケーション能力の養成に向けて」『山形大学紀要(教育科学)』第14巻 第1号: 11-33.
- 3) 園田博文・奥村圭子・中村朱美(2008)「異文化

理解力とコミュニケーション能力の養成にむけて－山梨大学・山形大学・佐賀大学の授業実践を事例として－『山形大学紀要（教育科学）』第14巻 第3号：55-77.

- 4) 園田博文・百留康晴・百留恵美子 (2008) 「台湾の大学との国際交流活動の現状と問題点－文藻外語學院，南臺科技大學，銘傳大學を中心に－」『山形大学教職・教育実践研究』第3号：57-66.

#### 【謝辞】

国際教育交流処の劉國偉先生ご夫妻，応用日本語学科主任の林長河先生，黎立仁先生，蔡豐琪先生，そして，窓口役を務めてくださった徐希農先生，中国語教育センター前主任廖蒼松先生，中国語教育センター現主任の陳仁暉先生に衷心よりの謝意を表します。銘傳大學から2年続けて受講学生にセミナー参加費相当分の奨学金を支給して頂いたのも先生方のご尽力の賜であります。林姿呈先生，廖紋華先生，陳憶如先生には，緊急連絡窓口を引き受けていただき，校外教学の際にご指導を賜りました。秦子紘先生，王蕙婷先生には中国語を教えていただき，羅紫正先生には，捏麵人の作り方を教わりました。接待所（学内旅館）では，楊聖能先生，楊宗蘅先生にご配慮いただき，観光学部の研修学生に手伝っていただきました。陳颯璇氏，孫毅權氏をはじめとする台日学生交流のボランティア学生諸君にも大変お世話になりました。

国際センターの須賀一好副センター長，新宮学副センター長，コーディネーターの尤銘煌先生，山本広志先生，大場吉博事務長はじめ事務の方々には貴重な助言を頂きました。地域教育文化学部（飯澤英昭学部長）からは，学生に航空運賃の一部補助としての支援を賜りました。また，異文化交流コースの伊藤貢士先生，小関文典先生，名子喜久雄先生，中西達也先生，中山和男先生，三上英司先生，ジェリー・ミラー先生からは様々にご助力いただきました。

最後になりますが，学生の視点からのアンケート作成に協力してくれた山田真利奈氏（第1回団長補佐）に感謝するとともに，受講学生諸君の今後の活躍を期待しつつ，陰に陽にお世話になった方々に謝意を表する次第であります。